



アセット・マネジメント部門長 中川 順子

# Asset Management Division

## アセット・マネジメント部門

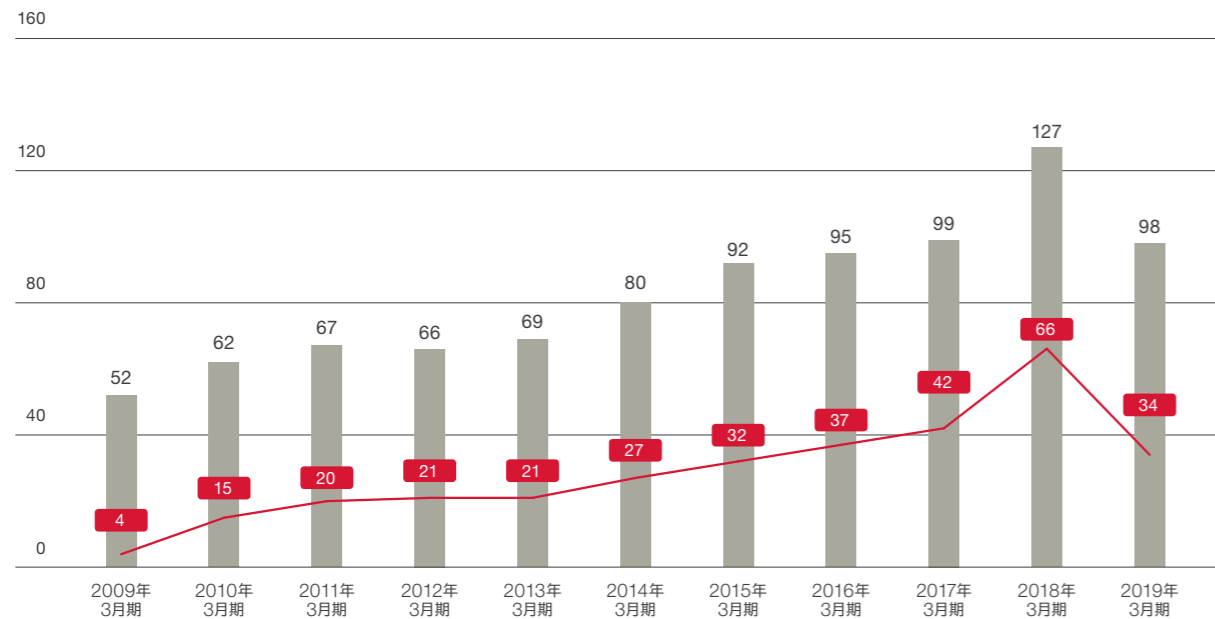
アセット・マネジメント部門は、野村アセットマネジメントを中核として、日本をはじめ世界12か国・地域において約1,400名のプロフェッショナルが、各地域の個人投資家のみならず年金基金や機関投資家に至るまでの幅広い投資家層に対し、高品質な運用戦略、商品ならびにサービスを提供しています。お客様の資産を預かる責任ある投資家として、世界中の多種多様な資産運用ニーズを的確に捉え、投資リターンの向上のみならず、投資先企業との対話を含むスチュワードシップ活動を通じて、資本市場の成長と発展に貢献していくことを目指しています。

### 2019年3月期の振り返り

2019年3月期は、国内投資信託事業のなかでETF(上場投資信託)、確定拠出年金向け投資信託の残高が拡大、また投資顧問事業では海外での新たな契約獲得が貢献し、合計で約2.2兆円の資金純流入がありました。この結果、2019年3月末の運用資産残高は昨年度末を上回る51.4兆円となりました。

一方、通期の収益は978億円、税引前当期純利益は342億円となりました。運用資産残高の拡大に伴う収益増加はあったものの、国内個人投資家向け公募投資信託での解約に加え、戦略的パートナーであるアメリカン・センチュリー・インベストメンツ(ACI)の株式持分の時価変動に伴う評価損の計上等から、部門業績は前年比で減収減益となりました。

業績推移 (10億円) ■ 収益合計(金融費用控除後) — 税引前当期純利益



### 運用資産残高

51.4兆円

2019年3月末

### ETF運用資産残高

世界No.5

(国内No.1)

2019年3月末

#### 強み

グローバルに展開する運用体制と質の高い運用調査能力  
内外投資家の資産運用ニーズの多様化に応える運用ソリューション提供力  
業界を先取りする高度な運用手法の開発などに挑戦する人材とノウハウ

#### 環境課題

- アセット・マネジメント部門の持続的成長を可能にするために
- 1 競争が激化する国内外の資産運用業界でさらに存在感を高めること
  - 2 国内個人投資家に対する資産運用の魅力の喚起と新たな投資家層の開拓
  - 3 海外事業の拡大を通じて収益基盤の多様化と事業基盤の堅固化
  - 4 デジタル化(テクノロジーを活用した運用手法開発やビジネス・プロセスの変革)への取り組み

#### 対応策

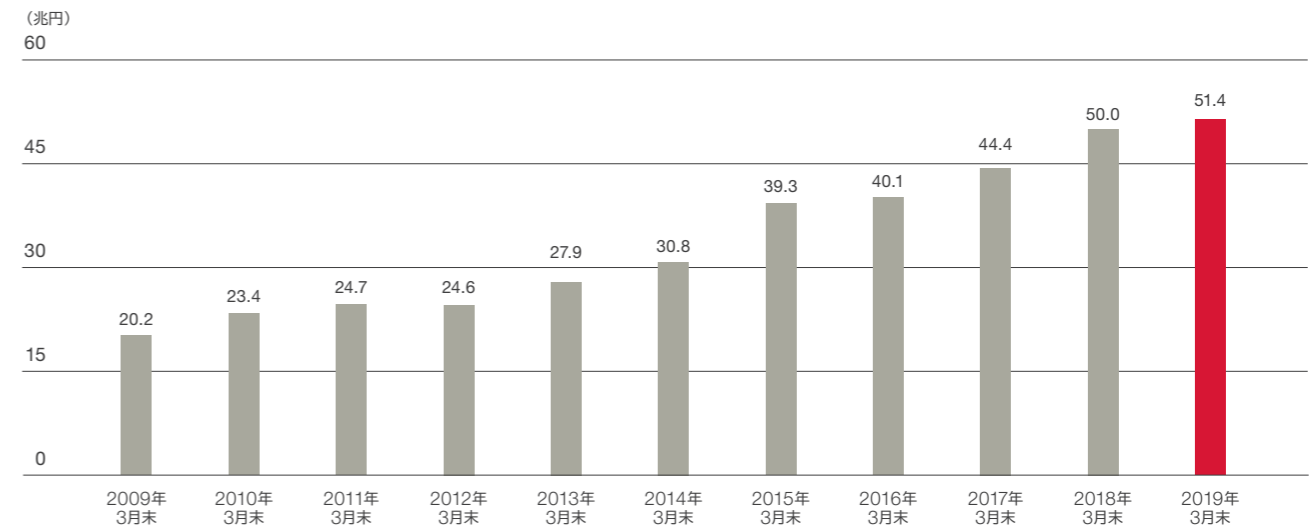
- 1 運用戦略、商品、サービスにおける“差別化要因”の明確化
- 2 さまざまなライフステージの投資家に資産運用を身近に感じてもらうためのサービスと商品の提供
- 3 海外事業での運用とマーケティングにおける効果的な資源配分の実現
- 4 デジタル化を推進する人材の確保やインフラ整備

### 環境の変化に応じた施策

アセット・マネジメント部門では、「すべてはお客様のために」という基本観に立ち、変化する事業環境やお客様の運用ニーズ、社会からの要請に応えるための取り組みを通じて運用資産残高の拡大に取り組んでいます。近年では特に以下の取り組みに注力してまいりました。

- 国内個人投資家層の裾野拡大に向けたマーケティング強化
- 企業との対話やESGへの取り組みなど、責任ある投資家としての活動の強化
- 資産運用に係る先端技術研究に要する人材の獲得と研究開発の推進

### 運用資産残高の推移



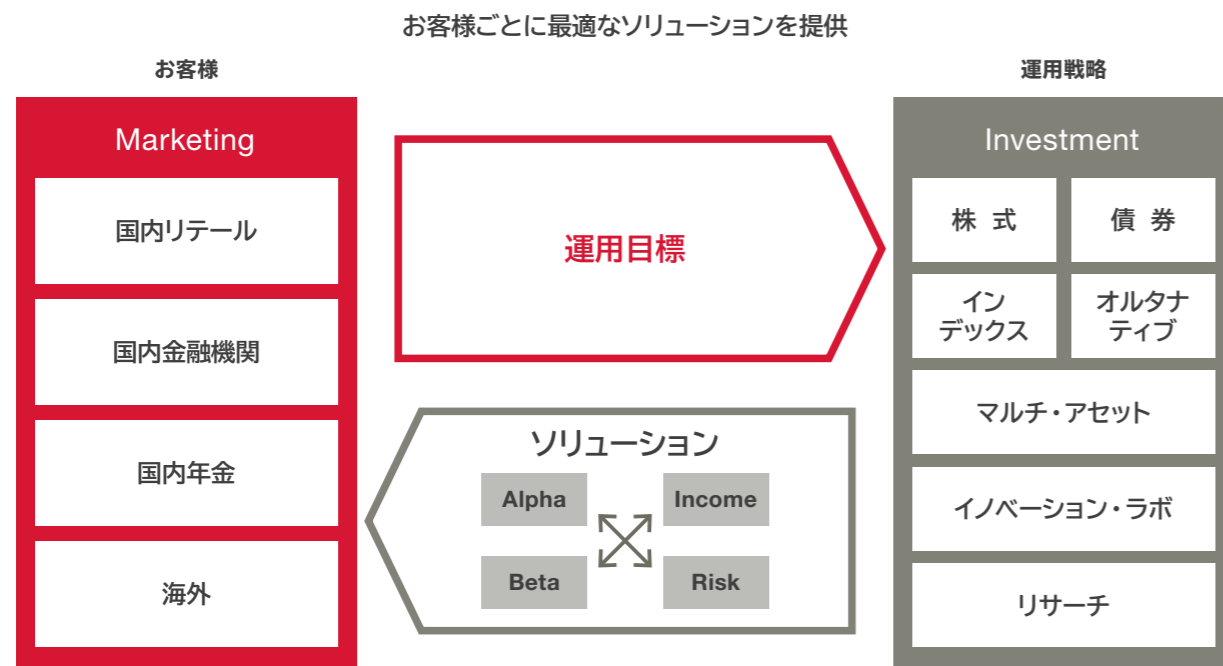
## 競争環境の激化や顧客ニーズが多様化するなかでの 中長期的な戦略

資産運用業界は、世界経済の発展とともに引き続き堅調な成長が見込まれています。その一方、先進諸国を中心とする地域での低金利環境の長期化や、政治や経済における不確実性の高まりのもとでは、投資家が期待する運用サービスを提供し、事業基盤を拡大していくためには、差別化に繋がる高度な運用戦略、商品、サービスの提供がますます求められてきています。これにともない業界内では、商品群の拡充や規模の拡大によるコスト競争力の強化を目指した合従連衡の動きに加え、異業種からの参入も相俟って、競争環境は激しさを増しています。このような環境のもと、アセット・マネジメント部門は、傘下の中核会社、野村アセットマネジ

メントが掲げる企業理念、「最高の付加価値の創造」、「高度な専門性の追求」、「信頼の獲得と社会への貢献」に基づき、お客様本位の業務運営を推進し、期待を超える成果を世界中のお客様に提供することを目指しています。そのため、国内外の投資家に対して運用成果を提供することのみならず、資産運用業を通じてSDGsに代表される社会的課題の解決に向き合い、責任ある投資家として活動することも重視しています。さらにデジタル化の潮流が加速するなか、多種多様な情報やデータを活用した運用戦略の開発を含め、テクノロジーを駆使しつつ、事業環境の変化に対応した施策にも積極的に取り組んでいます。

### 01 運用サービスにおける差別化

アセット・マネジメント部門では、多様化するお客様の要望に応えるため、運用成果の提供のみならず、オルタナティブ運用戦略の拡充や複数の資産クラスや運用手法を組み合わせた運用戦略の開発など、当社ならではの差別化された運用サービスの提案に取り組んでいます。



### 02 投資家層の裾野拡大

アセット・マネジメント部門では、資産運用の魅力伝える提案を、対面・非対面を問わず積極的に行っています。投資未経験者を含む資産形成層に対しては、資産運用や投資信託を身近に感じていただけるような商品、サービスを展開しています。また、退職世代を含めた幅広い投資家層に対しては、それぞれのライフステージに合わせた商品、サービスの提供やセミナーなどでの情報提供により、投資信託に対する理解をさらに深めていただく取り組みを行っています。

### 03 海外事業への取り組み

アセット・マネジメント部門では、今後も拡大が見込まれる海外において、経営資源を効果的に配分しつつ、事業基盤の強化を図っています。海外拠点での運用調査能力の向上に加え、新興地域を含めた海外のお客様に対し、当社ならではの特長ある運用戦略の拡充を通じて、運用資産残高の拡大に取り組んでいます。

### 04 責任ある投資家としての活動の促進

アセット・マネジメント部門では、投資先企業の持続的な企業価値向上につながる建設的な対話（エンゲージメント活動）や、ESG課題の解決に資する運用商品の提供、さらには投資教育の継続などに積極的に取り組むことで、資産運用を通じた社会の発展に貢献しています。

### 05 デジタライゼーションの促進

2017年に設立した「イノベーション・ラボ」（資産運用先端技術研究部）を軸に、デジタル技術の運用商品への活用に取り組んでいます。さらに、運用領域以外へもテクノロジーを活用するため、デジタル人材の採用・育成にも力を入れています。

# Expertise to Exceed<sup>1</sup>

今後もコーポレートスローガン"Expertise to Exceed"のもと、環境変化を着実に捉えて柔軟に対応し、社員一人ひとりが一段上を目指し、お客様から求められ続ける存在でいられるよう、取り組んでまいります。